

経営比較分析表

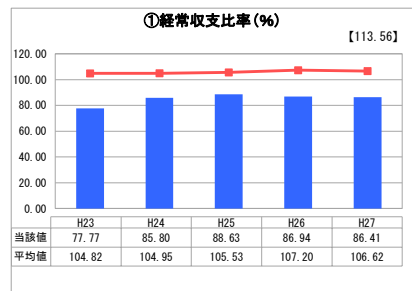
福岡県 大任町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	13.98	99.55	3,360

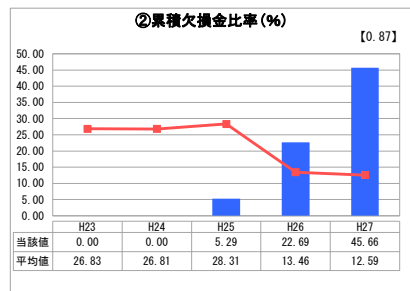
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,377	14.26	377.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,316	9.20	577.83

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

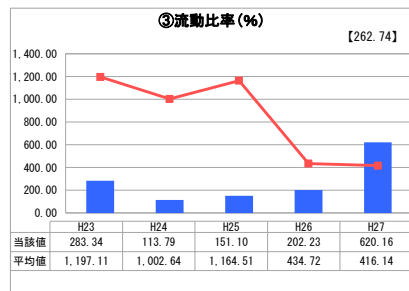
1. 経営の健全性・効率性



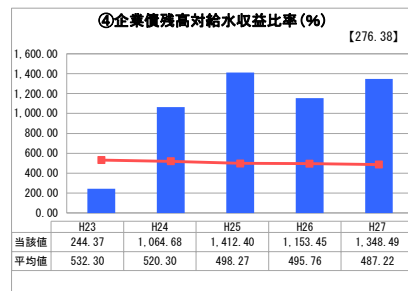
「経常損益」



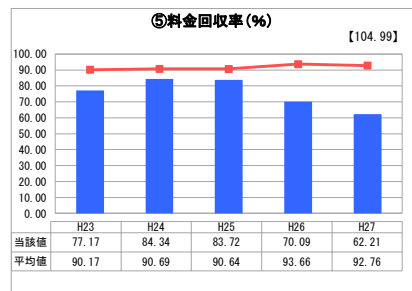
「累積欠損」



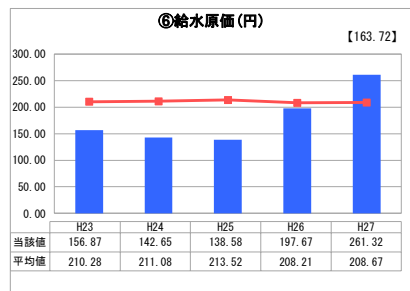
「支払能力」



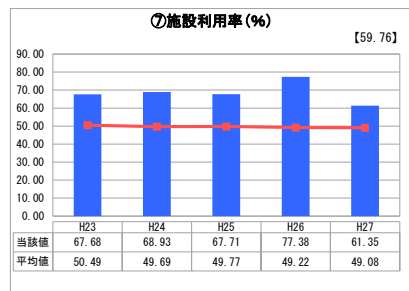
「債務残高」



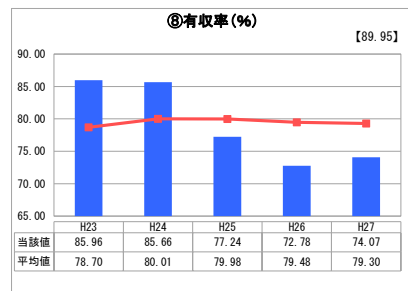
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

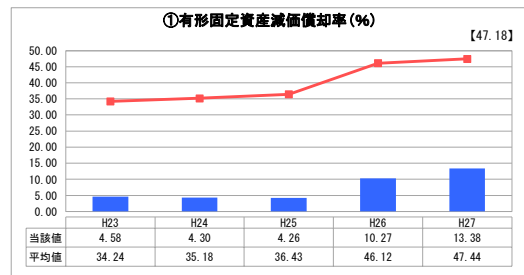


「施設の効率性」

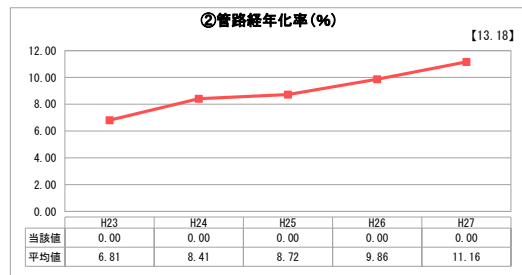


「供給した配水量の効率性」

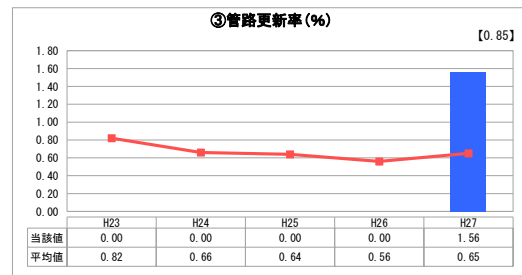
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営収支比率は類似団体平均値に比べて過去5年下回っており、数値が100%未満であるので維持管理費を抑えていけるよう今後、経営改善していく必要がある。
有収率につきましては、過去3年間、類似団体平均値より下回っており漏水が原因の一つと考えられる。よって、管路の補修、布設替えの強化を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は類似団体平均よりも著しく低く、施設の新設などで減価償却が進んでいない状況にある。ここ数年の間に複数の施設を新設したことにより耐用年数が長くなり、これから先も類似団体平均を下回ると見られる。よって、これから継続して財源確保や経営改善していく必要がある。管路更新につきましては、昨年度より管路の補修、布設替えをしているところであります。

全体総括

人口減少や節水意識の定着等による有収水量の減少に伴う給水収益の減少が見込まれる中、老朽化施設の更新や管路の耐震化が急務となっている。料金体系の見直し等による収益確保に努め、長期的に安定したサービスの提供に向け財政基盤の強化を図っていきたく考えている。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績を基に類似団体平均値を算出しています。